



7月のお便り



令和3年7月 7日
東明幼稚園・とうめい保育園
文責 古賀 俊恵



楽しい夏休みがもうすぐ。うれしい、楽しい、心躍る気持ちでいっぱいでしょう。

ただ、今年の夏休みも、昨年同様、「コロナ感染症」対策のために、行動が規制されてしまうのではないのでしょうか。

「不要不急の行動は控えましょう。マスクをつけて。3蜜を避けて。コロナに移らないように」工夫をしましょう。

楽しい夏休みが、苦痛の夏休みにならないように、今、私たちにできること、やれることを模索しながら乗り越えていきたいものです。

でも、そう言いながら、子ども達にはたくさんの思い出を作ってやりたいですね。外の空気を一杯吸って思いっきり遊ばせてやりたいですね。何も考えずに今までのような生活をさせてやりたいですね。

今、佐世保市は、長崎県の中でも「コロナ感染者数」が多く、毎日のように報道されています。このような状況の中でも、最善の方法を考えて「誰もが優しく」「誰もが思いやり」「誰もが自分も、他人も大切に」という、気持ちで毎日過ごしていきたいものです。



本気

6月のお誕生日会より
友達の質問に対して、しっかりと考えながら答えていた〇〇君だった。
保護者のからの手紙で〇〇君の表情が和らぎ、笑顔になり手紙を自慢する様子が見られた。

体操教室。伝わりにくい部分や、うまく体を使えない部分があるので、保育者総出で個々に対応。出来るようになると、褒めたり、ゴールで待ち、ハグや、タッチで受け止めるなど、喜びが倍になるように配慮した。

子ども達は、「体操楽しいね」と、言ったり友達同士で褒めあう姿も見られた。

担任の日々の保育より

6月30日(水)は歯科検診でした。



小さい子は怖くて泣く子が多かったのですが、さすがは上のクラス。みんな上手に検査してもらっていました。その後の先生の話で、「食べ物を咀嚼していない子」が多いですね。「顎の発達が昔と比べると衰えています。」と、いわれました。固いものを口にすることが減ってきたのでしょうか。話を聞きながら、幼稚園の給食を考えていました。

なんでもいいから
本気でやっごうん
本気でやれば
たのしいから
本気でやれば
つかれないから
つかれても
つかれが
さわやかだから



みつを

「あと伸びする力」を育てる

「非認知能力」とは、今よく聞く言葉ですね。簡単に言うと、読み、書き、計算などの「認知能力」ではない力、あるいは数値化しにくい能力のことです。「社会情動的スキル」とも言われ、OECD(経済協力開発機構)によると、「目標の達成(忍耐力、自己抑制、目標への情熱)」「他者との協働(社交性、敬意、思いやり)」「情動の抑制(自尊心、柔軟性、自信)」のこと。具体的には、**何かに熱中・集中して取り組む姿勢、自分の気持ちをコントロールできること、他者と上手くコミュニケーションできること、自分を大切に思えること**、と言った力のことです。乳幼児期にこうした非認知能力を育むことが、成長後の心の健全さや幸福感を高め、社会的・経済的効果を高めると考えられるのです。

その成果は、その時すぐにではなく後のなって出てくることから、「あと伸びする力」とも言われます。どうも、大切なことは目に見えにくいようです。(非認知能力を育てる遊びのレシピより)